

北海道の災害に寄せて
—旭川の俳人、歌人達の声—

青森の文学者たちが描いた自然災害

明日を生きる—天災地変と詩歌

原阿佐緒と震災詠 —大正十二年九月一日の記—

文学に見る震災資料展
高野ムツオ（俳句）× 佐々木隆二（写真）
【語り継ぐいのちの俳句】

天明飢饉といわき

天災地変と文学

花袋の見た大震災

天明の浅間焼と羽鳥一紅
—浅間山大噴火を記した高崎の女流文人

森鷗外と明治・大正の災害

自然災害と人間の営み
—「三陸海岸大津波」と「関東大震災」—

震災を書く

林芙美子記念館からのメッセージ 震災を書く

武者小路実篤と関東大震災

関東大震災と神奈川の文学

関東大震災をこえて～与謝野晶子～

吉田初三郎画

「関東震災全地域鳥瞰図絵」を読む

火の山の物語

～軽井沢文学にあらわれた浅間山の噴火・噴煙～

福井ゆかりの歌人と天災

司馬遼太郎と阪神淡路大震災

田辺聖子と室戸台風

与謝野晶子 心の復興—関東大震災を経て—

文人たちの震災

森鷗外文学に見る天変地異

吉備路の作家と震災小説

嘉村礒多と関東大震災

寺田寅彦と地震 7 高知の作家が向き合った地震

天災と文学—3.11 後の文学と九州の災害

3.11 文学館からのメッセージ

この全国文学館協議会の共同展示は、二〇一一年三月一日の東日本大震災を契機に開催されました。死者に対する鎮魂と被災者への慰謝を願う心から、当時の会長中村稔氏の提案に賛同した文学館が二〇一三年三月一斉に展示を始めました。

東日本大震災は、地震・津波という自然災害に加えて、原子力発電施設のメルトダウンによる放射能汚染が深刻な影響を多方面に与えています。汚染水の処理も今だにコントロールできずにいます。

昨年六月に大阪府北部地震、九月には北海道胆振東部地震が発生し、甚大な被害を引き起こしました。震災のみならず、七月には西日本を襲った集中豪雨もまた多大な被害を出しています。

人は過酷な体験を、記憶から消し去ろうとします。そうでなくても記憶は時間に洗われ変容し、忘却していきます。

多くの表現者が天災地変を直視し、多彩な表現を紡ぎ出してきました。それらの表現を収集し、展示し、保存していくことも文学館の使命であると考えます。ここに全国文学館協議会の各館は、この未曾有の大災害を直視し、記録に止め、死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者への慰謝とコミュニティの復興を願って、共同展示を開催いたします。

二〇一九年一月

全国文学館協議会 会長 山崎一穎